

番 号	取組主体	活動の動機・目的
①	FSCあぐりスクール (鳥取県鳥取市)	大学生の「食」に関する調査結果から、次世代を担う子どもたちが食農教育を体験する必要性を感じ、大学の農場で実践。また、自然に親しみながら児童と保護者が一緒に作物を育て、自分たちが育てた農作物を料理し食べることで、「食」について関心を持ってもらう機会の提供。
②	松江市教育委員会 学校給食課 (島根県松江市)	児童生徒が食農体験等で手がけた野菜等を学校給食の生きた教材として活用し、学習と体験授業の両面から、食の指導に活かす。また、生産者との連携を密に、教育的付加価値のある地産地消を進めることにより、児童生徒に望ましい食習慣と食に関する実践力を身に付けさせるとともに、安全・安心な地場産物の使用拡大に繋げる。
③	岡山県農林業実践学習の里 体験学習農園 (岡山県加賀郡吉備中央町)	農林業を志す青少年等を育成することとともに、農林業体験の参加者が、農林業の実践的な学習や生産から収穫までの体験をすることで、食育につなげることを目的。また、我々の先人たちの家屋や生活用品、暮らしを知り、生活体験をすることで地域の伝統文化を伝承。
④	高梁市 農林課 (岡山県高梁市)	耕作放棄地に作物を栽培し、農地を復元。消費者と生産者が共に作業や収穫物を食し、自然のすばらしさ、食の大切さを体験することで、耕作放棄地の解消や人的交流を図り、農村部が活性化することを目的に実施。
⑤	里山あーと村 (広島県広島市)	市民が豊かな自然にふれあい農作業・森づくりなどの体験をしながら交流し、里山文化を継承し、さらには阿戸地域の再生や発展、田舎料理などの普及・促進を目的として始める。
⑥	NPO法人 ほしはら山のがっこう (広島県三次市)	今の子は「食」の起源を知らない子が多く、いのちを食べている実感が無い。何とかしなければ・・・との思いと地域の活性化のため、時間をかけた宿泊や農業体験を通して「食」に気づいてもらいたい。
⑦	ふるさと牧場 (山口県防府市)	『ふるさとを守る』という使命感で就農し、牧場名も「ふるさと牧場」に。ここでの遊びや体験を通して、自然や農林業への理解を深めてもらい、将来このふるさとを継承したいという方が出てきてくれることを願う。
⑧	NPO法人 ALIVE LAB (アライブ ラボ) (徳島県板野郡北島町)	子どもたちが農作物の「植付け～収穫・加工・販売」の一連の体験をすることで、農業や加工・販売業の楽しさや難しさを知ってもらい、色々な人たちのふれ合いを通じて、「地産地消や食に関する意識」を育むための活動。
⑨	生活協同組合コープかがわ (香川県高松市)	参加組合員が土に親しみを持ち、作物を作る喜びや苦労、自然のすばらしさを体験することで、一人でも多く野菜が好きになり、地産地消と食育の推進に繋がること。
⑩	えひめ千年の森をつくる会 (愛媛県東温市)	目の前が開け、遠くに山があり、そして川が流れる大自然の中で、子どもたちが森や棚田で行う自然体験活動を通して、自然に親しみ、周りの生物を大切にしながら豊かな感性を持って生きる力を身につけてもらう。子どもや保護者、地域、先生方、それぞれの学びの場となるような活動を実施。
⑪	上ノ加江漁協 (高知県高岡郡中土佐町)	豊かな自然の中で身につけた漁業の知識や能力等を、体験を通じて次世代に伝える。また、地域生活や漁業、魚食についての理解が広がることにより、漁業者自らが自信を持つことができると考え、活動することで地域の活性化に繋がることを夢見て活動を実施。